

市民意識調査の概要

1 調査対象

住民基本台帳から無作為に抽出した市内在住の満20歳以上の男女3,000人

2 調査方法

調査票をメール便で配布し、郵便で回収

3 調査期間

平成27年10月20日(火)～11月13日(金)

4 回収結果

有効回収数 1,399票

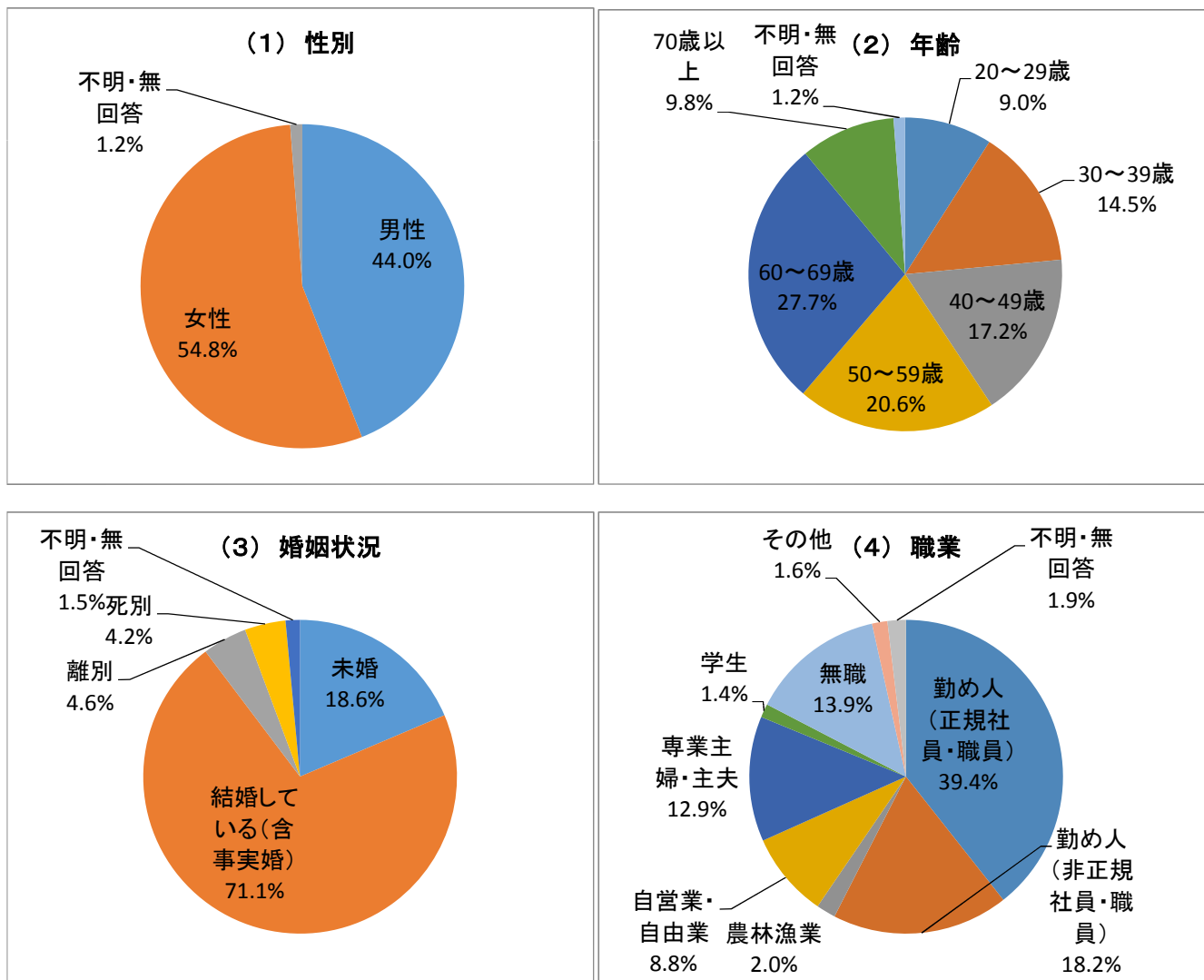
有効回収率 46.6%

5 調査実施主体及び実施機関

実施主体:長岡市市民部市民活動推進課男女共同参画推進室

実施機関:長岡大学地域連携研究センター

6 回答者の属性



7 既存調査との比較について

	今回調査	前回調査	まちづくりアンケート	男女共同参画に関する世論調査	女性活躍推進に関する世論調査	県民意識調査
実施主体	長岡市	長岡市	長岡市	国	国	県
調査期間	平成27年10月	平成22年9月	平成22年8月	平成24年10月	平成26年8月	平成27年8月
対象者	3,000人	3,000人	5,000人	5,000人	5,000人	2,000人
回収率	46.6%	55.6%	61.2%	60.7%	60.7%	49.7%

・次頁以降の調査結果について、「前回」は前回調査、「国」は男女共同参画に関する世論調査、「県」は県民意識調査の結果を記載。

・他の調査結果を記載した場合は、設問ごとにその旨を記載。

・該当する項目がない場合は「－」と記載。

8 指標について

計画の指標となっている設問については、設問に(指標)と表示。

◆男女共同参画に関する用語について

問1. あなたは、(1)～(5)の言葉について、これまでに見たり聞いたりしたことがありますか。次のうち、最も近いものを選んでください。(それぞれに○は1つ)

(1)男女共同参画社会

	度数	パーセント	前回	国	県
内容を知っている	193	13.8	14.5	63.7	-
内容までは知らないが、見たり聞いたりしたことはある	602	43.0	43.3		-
見たり聞いたりしたことはない	571	40.8	39.3	-	-
不明・無回答	33	2.4	2.9	-	-

(2)長岡市男女共同参画社会基本条例

	度数	パーセント	前回	国	県
内容を知っている	30	2.1	-	-	-
内容までは知らないが、見たり聞いたりしたことはある	299	21.4	-	-	-
見たり聞いたりしたことはない	1,034	73.9	-	-	-
不明・無回答	36	2.6	-	-	-

(3)DV(配偶者等からの暴力)

	度数	パーセント	前回	国	県
内容を知っている	1,070	76.5	73.7	81.7	-
内容までは知らないが、見たり聞いたりしたことはある	221	15.8	17.4		-
見たり聞いたりしたことはない	78	5.6	6.1	-	-
不明・無回答	30	2.1	2.8	-	-

(4)仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)

	度数	パーセント	前回	国	県
内容を知っている	339	24.2	17.7	41.3	7.0
内容までは知らないが、見たり聞いたりしたことはある	548	39.2	40.2		21.0
見たり聞いたりしたことはない	475	34.0	38.6	-	59.1
不明・無回答	37	2.6	3.5	-	-

(5)男女平等推進センター「ウィルながおか」

	度数	パーセント	前回	国	県
内容を知っている	82	5.9	5.6	-	-
内容までは知らないが、見たり聞いたりしたことはある	537	38.4	37.8	-	-
見たり聞いたりしたことはない	741	53.0	54.0	-	-
不明・無回答	39	2.8	2.6	-	-

DV、ワーク・ライフ・バランスについては、国・県と比べ認知度が高い一方、条例は4人に3人が知らず、男女平等推進センターは前回より認知度が上昇したが、半数以上が知らないと回答しており、市の男女共同参画施策について更に周知が必要である。

◆家庭生活・結婚に対する考え方について

問2. 次の(1)～(5)までの意見について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。(それぞれに○は1つ)

(1)結婚は個人の自由であり、結婚してもしなくてもどちらでもよい

	度数	パーセント	前回	国	県
そう思う	553	39.5	34.1	-	30.0
どちらかといえばそう思う	403	28.8	30.2	-	25.3
どちらかといえばそう思わない	283	20.2	21.6	-	28.4
そう思わない	134	9.6	12.8	-	12.4
不明・無回答	26	1.9	1.3	-	-

(2)夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

	度数	パーセント	前回	国※	県
そう思う	29	2.1	4.7	12.5	8.0
どちらかといえばそう思う	290	20.7	25.8	32.1	41.8
どちらかといえばそう思わない(指標)	391	27.9	25.7	33.3	28.7
そう思わない(指標)	658	47.0	41.9	16.1	16.8
不明・無回答	31	2.2	1.9	-	-

※国の調査結果は、女性活躍推進に関する世論調査

(3)結婚しても必ずしも子どもを持たなくてもよい

	度数	パーセント	前回	国	県
そう思う	337	24.1	20.2	-	19.9
どちらかといえばそう思う	352	25.2	22.3	-	24.0
どちらかといえばそう思わない	429	30.7	32.7	-	37.0
そう思わない	246	17.6	22.5	-	14.3
不明・無回答	35	2.5	2.3	-	-

(4)結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい

	度数	パーセント	前回	国	県
そう思う	206	14.7	13.2	-	-
どちらかといえばそう思う	443	31.7	29.0	-	-
どちらかといえばそう思わない	498	35.6	34.0	-	-
そう思わない	219	15.7	21.2	-	-
不明・無回答	33	2.4	2.6	-	-

(5)今の社会では離婚すると女性の方が不利である

	度数	パーセント	前回	国	県
そう思う	358	25.6	28.3	-	-
どちらかといえばそう思う	495	35.4	34.6	-	-
どちらかといえばそう思わない	250	17.9	17.7	-	-
そう思わない	261	18.7	17.4	-	-
不明・無回答	35	2.5	1.9	-	-

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という固定的な性別役割分担意識については、否定的に考える人が約75%で国・県(いずれも50%前後)と比べ非常に高くなっている。

◆男女の地位の平等について

問3. あなたは、次の分野で、また、社会全体でみた場合に男女の地位は平等になっていると思いますか。次のうち、最も近いものを選んでください。(それぞれに○は1つ)

(1) 家庭では

	度数	パーセント	前回※	国	県※
男性の方が非常に優遇されている	115	8.2	7.9	8.5	33.4
どちらかというと男性が優遇されている	713	51.0	39.0	34.7	
平等になっている	410	29.3	41.3	47.0	38.7
どちらかというと女性が優遇されている	109	7.8	6.2	6.1	4.1
女性の方が非常に優遇されている	21	1.5	1.5	1.3	
不明・無回答	31	2.2	4.2	-	-

(2) 職場では

	度数	パーセント	前回※	国	県※
男性の方が非常に優遇されている	241	17.2	8.9	15.6	40.9
どちらかというと男性が優遇されている	764	54.6	43.6	42.1	
平等になっている	250	17.9	30.4	28.5	23.6
どちらかというと女性が優遇されている	80	5.7	5.8	4.2	4.0
女性の方が非常に優遇されている	17	1.2	0.9	0.5	
不明・無回答	47	3.4	10.4	-	-

(3) 学校や教育の場では

	度数	パーセント	前回※	国	県※
男性の方が非常に優遇されている	30	2.1	2.5	2.4	6.8
どちらかというと男性が優遇されている	302	21.6	19.7	11.0	
平等になっている	950	67.9	61.7	67.0	57.8
どちらかというと女性が優遇されている	50	3.6	2.8	3.0	2.5
女性の方が非常に優遇されている	6	0.4	0.5	0.7	
不明・無回答	61	4.4	12.9	-	-

(4) 政治や経済の場では

	度数	パーセント	前回※	国	県※
男性の方が非常に優遇されている	400	28.6	21.1	30.0	52.7
どちらかというと男性が優遇されている	768	54.9	51.6	44.0	
平等になっている	154	11.0	16.6	18.6	18.0
どちらかというと女性が優遇されている	24	1.7	1.2	0.9	1.0
女性の方が非常に優遇されている	7	0.5	0.3	0.3	
不明・無回答	46	3.3	9.2	-	-

(5) 社会通念やしきたり・慣習では

	度数	パーセント	前回※	国	県※
男性の方が非常に優遇されている	320	22.9	21.0	18.6	58.4
どちらかというと男性が優遇されている	810	57.9	53.4	51.7	
平等になっている	178	12.7	14.3	21.4	12.5
どちらかというと女性が優遇されている	40	2.9	2.1	2.9	1.8
女性の方が非常に優遇されている	10	0.7	0.4	0.6	
不明・無回答	41	2.9	8.7	-	-

(6) 法律や制度では

	度数	パーセント	前回※	国	県※
男性の方が非常に優遇されている	101	7.2	8.7	8.7	28.8
どちらかというと男性が優遇されている	544	38.9	34.5	29.5	
平等になっている	599	42.8	41.5	45.4	26.5
どちらかというと女性が優遇されている	94	6.7	5.3	6.2	4.4
女性の方が非常に優遇されている	15	1.1	0.9	1.1	
不明・無回答	46	3.3	9.1	-	-

(7) 自治会など地域活動の場では

	度数	パーセント	前回	国	県※
男性の方が非常に優遇されている	123	8.8	-	6.9	38.1
どちらかというと男性が優遇されている	635	45.4	-	26.5	
平等になっている	495	35.4	-	52.1	24.8
どちらかというと女性が優遇されている	95	6.8	-	6.1	2.7
女性の方が非常に優遇されている	9	0.6	-	0.9	
不明・無回答	42	3.0	-	-	-

(8) 社会全体では

	度数	パーセント	前回※	国	県※
男性の方が非常に優遇されている	150	10.7	7.4	10.8	-
どちらかというと男性が優遇されている	926	66.2	54.2	59.1	-
平等になっている(指標)	217	15.5	26.1	24.6	-
どちらかというと女性が優遇されている	61	4.4	4.1	3.4	-
女性の方が非常に優遇されている	8	0.6	0.8	0.4	-
不明・無回答	37	2.6	7.3	-	-

※前回調査は、まちづくりアンケート

※県は「どちらともいえない」の選択肢あり

ほとんどの分野で「平等になっている」と考える人の割合が減少しており、市民が男女の平等感について問題意識を持っていることがうかがえる。性別にかかわらず、その個性と能力を発揮できるまちづくりのため、様々な分野で取組が必要である。

◆政策・方針決定過程への女性の参画について

問4. あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やす時に障害となるものは何だと思いませんか。
(〇はいくつでも)

	度数	パーセント	前回	国※	県
現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと	446	31.9	-	18.1	29.1
女性自身がリーダーになることを希望しないこと	447	32.0	-	12.9	33.2
上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと	543	38.8	-	31.1	31.2
長時間労働の改善が十分ではないこと	707	50.5	-	38.8	39.5
企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること	458	32.7	-	18.6	25.3
保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと	970	69.3	-	50.1	54.9
保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと	881	63.0	-	42.3	50.0
その他	39	2.8	-	0.5	1.7
特になし	39	2.8	-	3.9	3.8

※国の調査は、女性活躍推進に関する世論調査

参考：男女別集計	男性		女性	
	度数	パーセント	度数	パーセント
現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと	194	31.5	247	32.2
女性自身がリーダーになることを希望しないこと	220	35.8	225	29.3
上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと	165	26.8	373	48.6
長時間労働の改善が十分ではないこと	284	46.2	415	54.1
企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること	177	28.8	278	36.2
保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと	395	64.2	566	73.8
保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと	349	56.7	521	67.9
その他	22	3.6	16	2.1
特になし	29	4.7	10	1.3

国・県とほぼ同様の結果となっており、「家族の協力・支援」「公的サービス」「長時間労働の改善」が必要と考えられる。また、男女間で回答に差が見られ、意識の違いを解消する施策が必要である。

◆仕事と生活の調和について

問5. 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」について、次のうち、あなたの希望に最も近いものを選んでください。(○は1つ)

	度数	パーセント	前回	国	県
「仕事」を優先したい	47	3.4	4.0	9.8	-
「家庭生活」を優先したい	229	16.4	12.9	27.6	-
「地域・個人の生活」を優先したい	45	3.2	1.9	2.4	-
「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	502	35.9	33.6	30.5	-
「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	56	4.0	3.8	3.5	-
「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	179	12.8	10.3	9.0	-
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	315	22.5	29.5	15.9	-
不明・無回答	26	1.9	-	-	-

問6. それでは、次のうち、あなたの現実(現状)に最も近いものを選んでください。(○は1つ)

	度数	パーセント	前回	国	県
「仕事」を優先している	375	26.8	22.0	26.1	-
「家庭生活」を優先している	317	22.7	18.0	32.8	-
「地域・個人の生活」を優先している	60	4.3	2.9	2.7	-
「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	332	23.7	28.9	21.1	-
「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	65	4.6	4.3	3.7	-
「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	131	9.4	9.3	6.8	-
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している(指標)	105	7.5	9.8	5.2	-
不明・無回答	14	1.0	-	-	-

問7. 今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。次のうち、あてはまるものを全て選んでください。(○はいくつでも)

	度数	パーセント	前回	国	県
男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	677	48.4	39.0	-	-
仕事中心という社会全体の仕組みを改めること	524	37.5	29.1	-	-
男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること	548	39.2	28.0	-	-
仕事と家庭の両立などの問題について相談できる窓口を設けること	176	12.6	16.5	33.5	-
労働時間短縮や休暇制度を普及させること	741	53.0	47.7	48.4	-
夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと	591	42.2	45.2	66.7	-
子どものときから家事などを男女で分担するようなしつけや育て方をすること	653	46.7	43.2	-	-
家事などを男性が行うことに対する抵抗感をなくすこと	583	41.7	38.3	-	-
年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担についての当事者の考え方を尊重すること	507	36.2	-	41.7	-
その他	24	1.7	3.4	1.1	-

「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」をともに充実させていきたい、また現実に充実させている人の割合はともに減少した。ワーク・ライフ・バランスという言葉の認知度は上がっており、実践のために必要な考え方等についての情報提供が必要である。

また、男性の家事、地域活動等への参加の促進に必要なことについては、大きな傾向の変化がみられなかった。「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」を選択した人が50%を超え、働きやすい職場環境の取組をさらに推進する必要がある。

◆女性の生き方・働き方について

問8. 女性は次のどの生き方・働き方をするのが理想だと思いますか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。(○は1つ)

	度数	パーセント	前回	国	県
結婚はせず、仕事を持ち続ける	7	0.5	0.4	-	-
結婚はするが、出産はせず、仕事を持ち続ける	9	0.6	0.4	-	-
結婚し、出産後も仕事を持ち続ける	592	42.3	34.9	-	-
結婚を機に仕事をやめて家庭に入るが、育児が一段落したら再び仕事につく	93	6.6	8.3	-	-
出産を機に仕事をやめて家庭に入るが、育児が一段落したら再び仕事につく	564	40.3	44.2	-	-
結婚を機に仕事をやめて家庭に入る	21	1.5	2.4	-	-
出産を機に仕事をやめて家庭に入る	29	2.1	4.4	-	-
仕事につかないで結婚する	4	0.3	0.4	-	-
その他	37	2.6	2.8	-	-
不明・無回答	43	3.1	1.9	-	-

「結婚し、出産後も仕事を持ち続ける」と回答した人が40%を超え、「出産を機に仕事をやめて家庭に入るが、育児が一段落したら再び仕事につく」を上回った。仕事と家庭の両立支援の一層の充実が必要である。

◆DV(配偶者等からの暴力)について

問9. あなたは、配偶者や恋人などから暴力を受けた場合の相談窓口として、どのようなところを知っていますか。次のうち、知っているものを全て選んでください。(○はいくつでも)

	度数	パーセント	前回	国	県
長岡市男女平等推進センター「ウィルながおか相談室」	207	14.8	9.9	-	-
長岡市配偶者暴力相談支援センター	100	7.1	-	-	6.1
長岡市社会福祉協議会「ふれあい福祉総合相談所」	109	7.8	5.9	-	-
NPO法人 女のスペース・ながおか	92	6.6	5.4	-	-
新潟地方法務局長岡支局「人権相談室」	140	10.0	12.5	-	-
警察	1,094	78.2	72.2	-	42.9
新潟県女性福祉相談所(配偶者暴力相談支援センター)	88	6.3	6.7	-	6.1
その他	20	1.4	0.7	-	0.3
どこも知らない(指標)	164	11.7	14.7	-	35.7

問10. あなたは、配偶者や恋人などから、次の(1)～(5)のような暴力を受けたことがありますか。(それぞれに○は1つ)

(1)身体的暴力

	度数	パーセント	前回	国	県
ある	129	9.2	10.5	-	-
ない	1,188	84.9	82.9	-	-
わからない	31	2.2	1.5	-	-
不明・無回答	51	3.6	5.0	-	-

(2)精神的暴力

	度数	パーセント	前回	国	県
ある	210	15.0	12.7	-	-
ない	1,088	77.8	77.5	-	-
わからない	42	3.0	2.9	-	-
不明・無回答	59	4.2	6.9	-	-

(3)経済的暴力

	度数	パーセント	前回	国	県
ある	59	4.2	3.4	-	-
ない	1,237	88.4	87.2	-	-
わからない	31	2.2	1.4	-	-
不明・無回答	72	5.1	8.0	-	-

(4)性的暴力

	度数	パーセント	前回	国	県
ある	54	3.9	2.9	-	-
ない	1,235	88.3	87.1	-	-
わからない	44	3.1	2.0	-	-
不明・無回答	66	4.7	7.9	-	-

(5)社会的暴力

	度数	パーセント	前回	国	県
ある	61	4.4	4.7	-	-
ない	1,234	88.2	85.7	-	-
わからない	33	2.4	1.7	-	-
不明・無回答	71	5.1	7.8	-	-

相談窓口として「ウィルながおか相談室」を知っている人が約15%と前回より増加した。また、「どこも知らない」と答えた人は11.7%に減少し、相談窓口の周知が成果を挙げつつある。

◆妊娠、出産などへの女性の意思の尊重について

問11. あなたは、妊娠や出産、不妊、避妊などにおいて、女性の意思が尊重されるためにどのようなことが大切だと思いますか。次のうち、最も大切だと思うものを選んでください。(○は1つ)

	度数	パーセント	前回	国	県
配偶者やパートナー間での話し合い	929	66.4	61.5	-	-
親子間など家庭での話し合い	92	6.6	9.9	-	-
学校における性や健康に関する教育	180	12.9	11.0	-	-
性や健康についての相談窓口	14	1.0	1.2	-	-
講座の開催などによる学習機会の提供	34	2.4	3.4	-	-
パンフレットなどによる情報提供	22	1.6	1.1	-	-
その他	9	0.6	1.4	-	-
不明・無回答	119	8.5	6.1	-	-

「配偶者やパートナー間での話し合い」が約5ポイント増加した。全体としては、大きな変動は見られなかった。

◆メディアにおける性・暴力表現について

問11. あなたは、メディア(テレビ、新聞、インターネット、コンピューターゲームなど)における性・暴力表現について、問題があると思いますか。それとも、そうは思いませんか。(○は1つ)

	度数	パーセント	前回	国	県
そう思う	394	28.2	29.1	40.5	-
どちらかといえばそう思う	548	39.2	37.6	33.3	-
どちらかといえばそう思わない	249	17.8	11.3	11.6	-
そう思わない	178	12.7	8.0	9.1	-
不明・無回答	30	2.1	2.7	-	-

問12. それは、どのような点で問題があると思いますか。次のうち、最も問題があると思う点を選んでください。(○は1つ)(前問でそう思う・どちらかといえばそう思うと回答者)

	度数	パーセント	前回	国※	県
女性の性的側面を過度に強調するなど、女性の人権が侵害されている	129	13.7	9.9	36.9	-
社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている	288	30.6	40.0	55.4	-
女性に対する暴力を助長する	39	4.1	3.5	32.9	-
そのような表現を望まない人や子どもの目に触れている	377	40.0	34.4	60.3	-
児童に対する性犯罪を助長する	73	7.7	7.2	52.8	-
その他	9	1.0	1.9	0.7	-
不明・無回答	27	2.9	2.5	-	-

※国は複数回答可

「問題があるとは思わない」と答えた人の割合が前回より増加し、国の調査と比べても高くなっている。女性を性的ないしは暴力行為の対象として捉えたメディアにおける性・暴力表現は、女性に対する人権侵害であり、広報・啓発活動の充実が必要である。

◆男女共同参画社会に関する市への要望について

問13. 男女共同参画社会を実現するために、今後、市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次のうち、あてはまるものを全て選んでください。(〇はいくつでも)

	度数	パーセント	前回	国	県
法律や制度の見直しを行う	295	21.1	20.9	45.8	-
市の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する	407	29.1	26.0	44.9	-
民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むように支援する	359	25.7	22.5	42.1	-
女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する	182	13.0	16.3	27.7	-
子育て中であっても仕事が続けられるよう、保育の施設・サービスを充実する	1,015	72.6	-	-	-
男女の平等と相互の理解や協力について学習機会を充実する	209	14.9	13.4	23.9	-
労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める	655	46.8	37.7	45.9	-
介護中であっても仕事が続けられるよう、高齢者や病人の施設・介護サービスを充実する	851	60.8	-	-	-
子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する	815	58.3	55.9	61.6	-
男女の平等と相互の理解や協力について広報・PRする	190	13.6	14.6	21.2	-
従来、女性が少なかった分野(研究者等)への女性の進出を支援する	178	12.7	-	40.4	-
配偶者などからの暴力を根絶するための相談・保護体制や意識啓発を充実する	261	18.7	-	-	-
その他	36	2.6	3.0	0.6	-
特になし	34	2.4	1.7	2.9	-

前回調査と比べ大きな変化は見られなかったが、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める」を選んだ人の増加率が最も高く、働き方の見直しへの関心が高まっているといえる。